

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- ◎本号は、1月23日号と1月30日号の合併号で8ページです。
- 2面 女性ニュース ■3面 読者のページ/まんが/乱楽パズル ■4~5面 女性国際戦犯法廷20年/はたらくコラム/ホットライン ■6面 食事情/子育て相談/時事 ■7面 新婦人のページ/主張/母の歴史

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです



コロナ禍

広がる緊急事態宣言 自助、共助は限界

国の支援急いで

感染力の強い変異種の流入など、新型コロナウイルス感染拡大「第3波」のもと、緊急事態宣言が全国に広がっています。一人でも多くの命を救いたいと困窮者支援の現場に立ち続ける、両宮凜さんに緊急インタビューしました。

困窮支援の現場から

作家・活動家 両宮凜さんに聞く

まるでいじめ!?

「緊急事態宣言が再び発令されました。雨宮 このままでは多くの人が死にますよ。まず安心させてほしいというか、「これだけ補償しますから休んでください」と言われれば、みんな時短もするし、休むと思うのですよ。前回の教訓が全然いかされていない。日本の場合、安心感がないことが自殺者の急増につながっていると

思うのです。困窮しても生活保護とか国の制度を使えますよとか、そういうメッセージがない。自助ばかり言っているのだから残酷。いじめというか虐待みたいな感じですね。

「底」が抜けた

「一年末年始も休まず、現場で活動していましたね。」

雨宮 12月29日〜1月3日まで、毎日相談員をしていました。私が話を

女性、家族連れの姿が

2008年の派遣村は505人きて女性は5人だけ、1%以下でした。今回のコロナ相談村は3

聞いた数十人のうち、すでに野宿、所持金1000円以下という人が半分以上でした。日本という国の「底」が抜けたと痛感する6日間でした。

44人きて女性が61人で18%、女性の割合がすごく増えています。ごく普通の身なりの女性、家族連れが、「本当に助かります」と食料支援や炊き出しに並ぶ姿は今までなかったことなので本当に驚いています。

40代の就職氷河期世代が多いです。20年派遣を転々としてきたとか、10年以上ネットカフェ暮らしとか、コロナ禍でホームレスになって、生活保護につながり十数年ぶりにアパート暮らしに戻れたなど、喜んでよいのか、そんな事例も相次ぎました。

「新婦人の緊急アンケートでも非正規女性、シングルマザーの深刻な実態が寄せられました。雨宮 アンケートの声、興味深く読みました。やっぱり圧倒的に非正規の人が多くですね。職種や、世代を見ても、私が日ごろ受けている相談と

飲食とかサービス業全般、イベント関係、宿泊、旅行関係など、非正規女性の相談に昨年から継続してのっています。いっつ困窮に至るかはその人の貯金の残額次第という、深刻な実態です。

〈2面へ〉

読者のみなさまへ
緊急事態宣言に伴い1月、2月に合併号を発行します。

新婦人しんぶんへの日ごろの愛読とご協力をありがとうございます。新型コロナウイルスの感染拡大が止まらないなか、みなさまも不安な日々を送られていることと思います。

普政権の無為無策、感染防止に逆行する政治のもと、再度の緊急事態宣言後も人出が減らず、医療体制崩壊の危機が迫るなど、深刻な事態に歯止めがかけられません。

出勤者数を7割減らすなど、感染拡大防止への社会的要請にこたえつつ、みなさまの命と健康を守り、新婦人の活動と新婦人しんぶんの発行を維持していくために、合併号の対応をせざるを得ない状況です。

当面、本号1月23日号・30日号(18日まで到着)と、2月6日号・13日号(2月1日までに到着)を合併号(各号8ページ建て)として発行します。

新婦人は、コロナ危機のもと、女性たちの困ったの声を集め、声をあげ、社会を変える活動、全国をつなぎ、希望を届ける紙面づくりに全力をあげます。どうぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。

2021年1月15日

新婦人しんぶん編集部
新日本婦人の会

